IMS Health & Quintiles are now IQVIA™

News Release

報道関係各位

『IQVIA ジャパン* 平成年間トップライン市場データ』

平成年間（1989 年-2018 年）で国内の医療用医薬品市場は 187.1%成長し、金額ベースで 4 兆 8,114 億 48 百万円拡大

- **2018 年の日本医薬品市場（10 兆 3,374 億 71 百万円）は、平成元年の 1989 年（5 兆 5,260 億 23 百万円）と比較すると 4 兆 8,114 億 48 百万円増で 187.1%拡大**
- **平成年間の日本医薬品市場は 1992 年に 6 兆円台に乗り、その後 2003 年、2007 年、2011 年、2015 年と 4 年毎に 1 兆円ずつ桁が拡大**
- **前年比マイナス成長は 1996 年から 1998 年までの 3 年連続が最長**
- **前年比プラス成長は 2008 年から 2016 年まで 9 年間連続が最長だったが、2017 年から 2 年連続で前年を下回る**

*2018 年 4 月 1 日から、クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社およびアイ・エム・エス・ジャパン株式会社は、IQVIA（アイキューヴィア）ジャパングループとして活動しています。

2019 年 4 月 16 日、IQVIA ジャパングループ（本社：東京都港区、会長：湊方彦）は、平成年間にあたる 1989 年から 2018 年暦年の日本医療用医薬品市場（薬価ベース）を、「IQVIA ジャパン 平成年間トップライン市場データ」として発表しました。なお、本レポートでは、日本医療用医薬品市場の市場合計と、市場影響要因として主要 16 薬効を取り上げています。

IQVIA ジャパングループは、日本のヘルスケア産業の発展と透明性の創造、および社会の皆様に日本のヘルスケア市場についての理解を深めていただくため、市場規模や薬効、製薬企業および医薬品の売上、処方、疾病に関するトップラインデータをメディアや医療・医学の研究に携わっている学術研究機関に提供しています。トップラインデータを開示することで、弊社は皆様と情報の共有化を図り、日本のヘルスケアの発展に貢献したいと考えています。

【平成年間（1989 年ー2018 年）】日本医療用医薬品市場の主なトピックは以下の通りです。

全医薬品市場　（別添図表 1 参照）

- 2018 年の国内医療用医薬品市場（10 兆 3,374 億 71 百万円）は、平成元年の 1989 年（5 兆 5,260 億 23 百万円）と比較すると 4 兆 8,114 億 48 百万円増で 187.1%拡大した。
- 平成年間の日本医薬品市場は 1992 年に 6 兆円台に乗り、その後 2003 年、2007 年、2011 年、2015 年と 4 年毎に 1 兆円ずつ桁が拡大してきた。
- 平成年間で対前年比最高は 1989 年の 10.0%で、金額ベースで 5,023 億 66 百万円増だった。
- 平成年間で対前年比最低は 1998 年（全市場 6 兆 799 億 94 百万円）の-7.0%で、金額ベースで 4,568 億 2 百万円減だった。
- 対前年比マイナス成長は 1996 年から 1998 年までの 3 年連続が最長だった。
- 対前年比プラス成長は 2008 年から 2016 年まで 9 年間連続と最長だったが、2017 年から 2 年連続で前年を下回っている。

主要 16 薬効*別市場　（別添図表 2 参照*）

- 全医薬品市場に占める主要 16 薬効の比率は、1989 年が 44.9%、2018 年が 49.8%だった。*
- 全医薬品市場に占める主要 16 薬効の比率が最も大きかったのは、2016 年で 51.7%だった。*
- 全医薬品市場に占める主要 16 薬効の比率が最も小さかったのは、1994 年で 38.7%だった。*
- 主要薬効の中で対前年比の最高値は、2015 年の J05 全身性抗ウイルス剤で 125.3%増（2,764 億 51 百万円増）だった。
- 主要薬効の中で対前年比の最低値は、2017 年の J05 全身性抗ウイルス剤で 44.2%減（2,689 億 80 百万円減）だった。

主要 16 薬効別ランキング　（別添図表 4、5 参照）

平成年間 10 年ごとの合計値で比較 - 前期（1989 年-1998 年）・中期（1999 年-2008 年）・後期（2009 年-2018 年）

- 「A10 糖尿病治療剤」は、売上額ランキングで 16 薬効中前期 9 位、中期 8 位から、後期は 3 位になり、成長額ランキングでは、前期 4 位、中・後期と続けて 3 位になった。
- 「C09 レニンーアンジオテンシン系作用薬」は、売上額ランキングで 16 薬効中前期 8 位、中期 3 位、後期は 2 位になり、成長額ランキングでは前期 5 位、中期にトップになり、後期は 15 位になった。
- 「C08 カルシウム拮抗剤」は、売上額ランキングで 16 薬効中前期 4 位、中期 5 位から、後期は 12 位になり、成長額ランキングでは前期 2 位、中期 8 位から、後期は 16 位になった。
- 「J01 全身性抗菌剤」は、売上額ランキングで 16 薬効中前期・中期のトップで後期は 7 位だったが、成長額ランキングでは前期・中期ともに 16 位で、後期は 14 位だった。
- 「L01 抗腫瘍剤」は、売上額ランキングで 16 薬効中前期 3 位、中期 6 位、後期にトップとなり、成長額ランキングでは、前期 3 位・中期 2 位・後期トップになった。
- 「L04 免疫抑制剤」は、売上額ランキングで 16 薬効中前期 15 位、中期 14 位、後期は 8 位となり、成長額ランキングでは、前期 9 位、中期 7 位から後期は 2 位になった。

*** IQVIA ジャパン 「日本医薬品市場統計」における「薬効」は ATC 分類に準拠しています。**

本項の 「ATC 分類（Anatomical Therapeutic Chemical Classification）は、EphMRA（European Pharmaceutical Market Research Association：欧州医薬品市場調査協会）により管理されている、アナトミカル薬効分類（作用部位別薬効分類）に準じており、日本医薬品市場統計作成にあたっては、定期的に最新最適な状態に見直しを図っています。

***ATC 分類の見直しによって、薬剤の属性変更や新たな ATC の設置など年次で変わることがあります。**

分析対象の「C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤」「L04 免疫抑制剤」は、それぞれ 1997 年、1994 年から新たに ATC 分類が新設されました。

*本レポートでは、市場影響因子として以下 16 薬効を「主要薬効」としてハイライトしました。

	ATC 薬効	代表的な薬剤例
1	A02 制酸剤，鼓腸及び潰瘍治療剤	H2 ブロッカー、プロトンポンプ阻害剤など胃酸分泌に作用する治療剤
2	A10 糖尿病治療剤	インスリン製剤、DPP4 阻害薬、GLP1 受容体作動薬、SGLT2 阻害薬などを含む糖尿病治療薬
3	B01 抗血栓症薬	ヘパリン製剤、トロンビン製剤など血栓形成を抑制する治療薬
4	C02 降圧剤	その他の作用機序により降圧効果を有する高血圧治療薬
5	C03 利尿剤	カリウム保持性利尿剤､ループ利尿剤など尿細管へ作用し尿排泄を促進する高血圧治療薬
6	C07 β－遮断薬	β 受容体に作用する高血圧治療薬
7	C08 カルシウム拮抗剤	カルシウムイオンチャネルに作用する高血圧治療薬
8	C09 レニン－アンジオテンシン系作用薬	ACE 阻害剤、ARB など、レニン-アンジオテンシン系に作用する高血圧治療薬
9	C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤	スタチン製剤などを含む高脂血症、動脈硬化治療薬
10	J01 全身性抗菌剤	セフェム系、キノロン系などの抗生物質を含む細菌感染治療剤
11	J05 全身性抗ウイルス剤	インフルエンザ、C 型肝炎、HPV などのウイルス治療薬
12	L01 抗腫瘍剤	モノクロナール抗体、プロテインキナーゼ阻害剤などの悪性腫瘍治療剤
13	L04 免疫抑制剤	抗 TNF 剤、インターロイキン阻害剤などリウマチなどの膠原病をはじめとする自己免疫系に作用する治療薬

14	N05 向精神薬	定型・非定型などの抗精神病薬、抗不安薬、睡眠導入剤を主とする中枢神経系機能改善の治療薬
15	N06 精神賦活剤；痩身用剤を除く	三環系・四環系、SSRI,SNRI などの抗うつ薬、ADHD 治療薬を主とする中枢神経系機能改善の治療薬
16	N07 その他の中枢神経系用剤	アルツハイマー病、多発性硬化症を含むその他の中枢神経系疾患治療薬

IQVIA について

IQVIA （NYSE:IQV）は、先進的かつ高度な分析力と機能、革新的テクノロジー、および臨床試験サービスをライフサイエンス業界の皆さまへ提供する世界的なリーディング企業です。IMS Health と Quintiles の統合により誕生した IQVIA は、ヒューマン・データ・サイエンス（分析の精緻さとデータサイエンスの明晰さを、拡大し続けるヒューマンサイエンスの領域に対し活用すること）を用いることにより、ヘルスケア企業の皆さまが臨床開発とコマーシャル領域におけるこれまで無いアプローチを、新たなイマジネーションの下で発展させ、イノベーションを速め、ヘルスケア・アウトカムの改善をより一層加速させることを支援します。私たちの原動力である「IQVIA CORE™」によって、IQVIA は実務実行力を伴いながら、大規模な分析、革新的なテクノロジー、そしてスペシャリストによる幅広い専門知識、これらが交差する地点に、実用的且つ唯一無二のインサイトを提供しています。私たち IQVIA は、現在 5 万 8,000 人が、世界 100 以上の国と地域で活動しています。

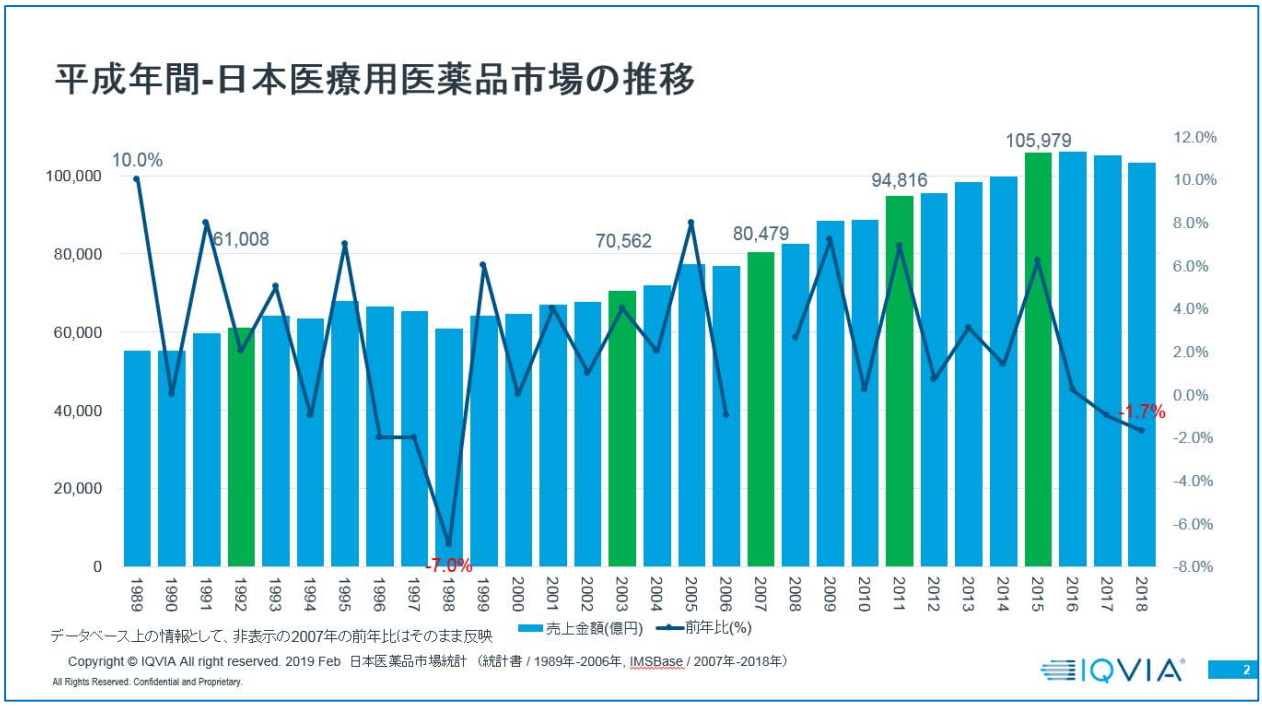
IQVIA は、患者の皆さまの個人情報保護の分野においても、世界をリードしています。医療関係者の皆さまが、疾患のパターンを特定し、より良いアウトカムの実現のために必要である明確な治療方針や治療法の関連づけに資する規模での情報を収集・分析すると同時に、様々なプライバシー保護のための技術や安全対策に取り組んでおります。IQVIA が持つインサイトや実務の実行力は、治療・治癒の実現に向かい尽力するバイオテクノロジー企業、医療機器メーカー、製薬企業、医学研究機関、政府機関、保険者やその他様々な医療関係者の皆さまによる疾患そのものや人間の行動、サイエンスの進歩に対する更なる理解の深耕を支援します。IQVIA の詳しい情報はこちら（www.IQVIA.com）をご覧ください。日本向けの URL はこちら（www.iqvia.co.jp）

※IMS Health と Quintiles のグローバル統合ブランド“クインタイルズ IMS”は、2017 年 11 月 6 日（米国東部標準時）に“IQVIA”となりました。日本法人では 2018 年 4 月 1 日をもちまして IQVIA ジャパングループとなりました。

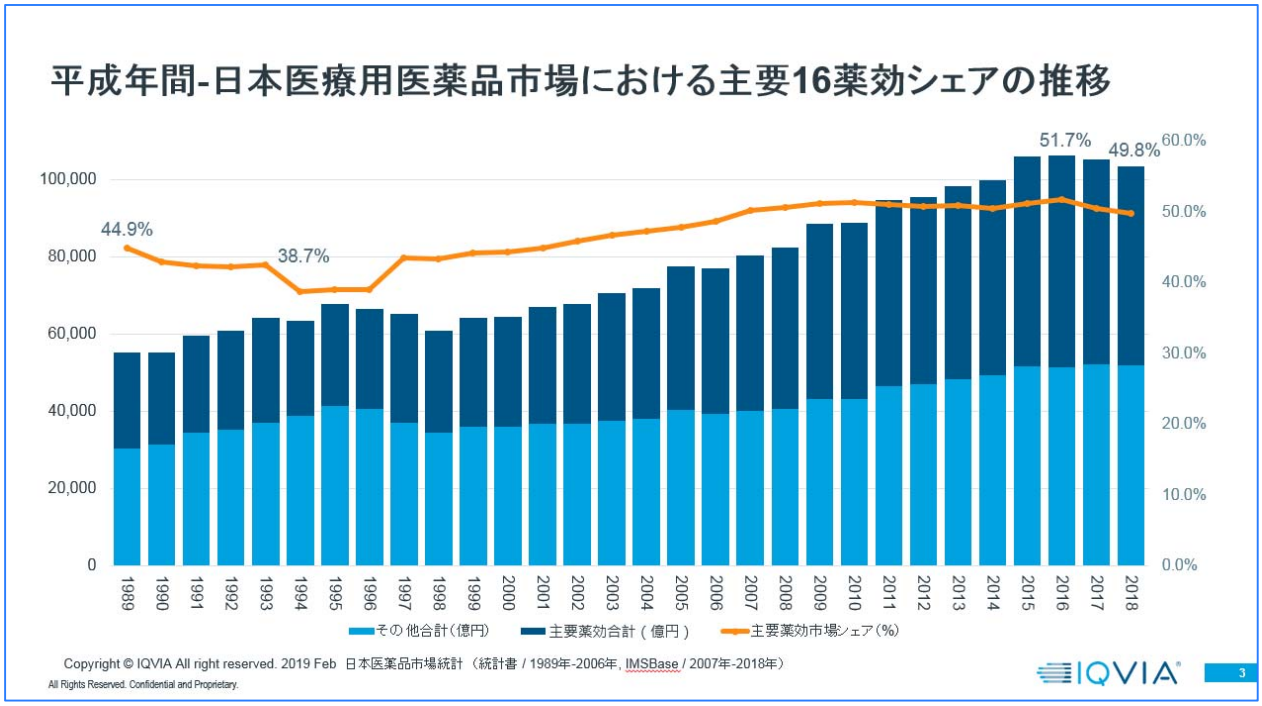
本件に関するお問合せ先

IQVIA ジャパン グループ
広報マーケティング統括部
広報担当
TEL 03-6894-5420
Email jp.coms@iqvia.com

【図表 1】

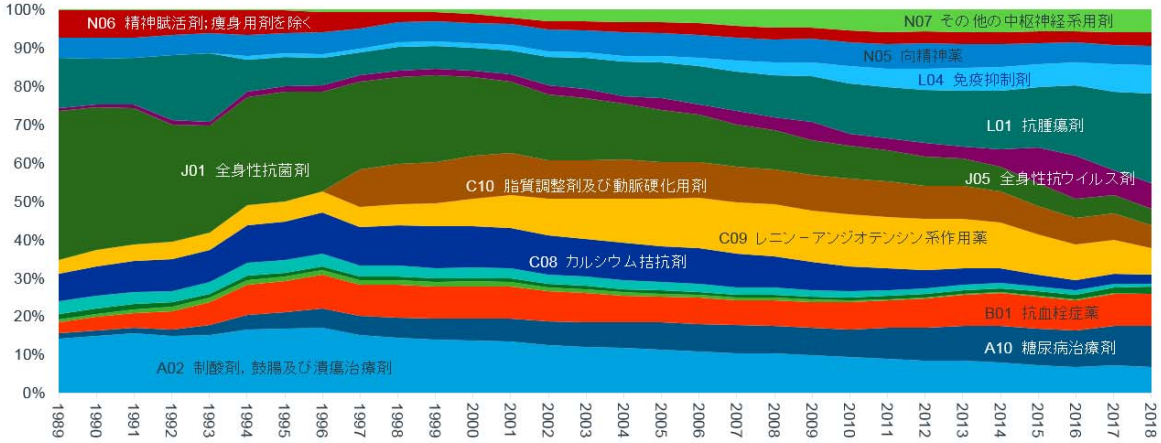

平成年間-日本医療用医薬品市場の推移
10.0%
61,008
70,562
80,479
94,816
105,979
-7.0%
-1.7%
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
12.0%
10.0%
8.0%
6.0%
4.0%
2.0%
0.0%
-2.0%
-4.0%
-6.0%
-8.0%
1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018
データベース上の情報として、非表示の2007年の前年比はそのまま反映
売上金額(億円)
前年比(%)
Copyright © IQVIA All right reserved. 2019 Feb 日本医薬品市場統計 （統計書 / 1989年-2006年, IMSBase / 2007年-2018年）
All Rights Reserved. Confidential and Proprietary.
IQVIA
2

【図表 2】


平成年間-日本医療用医薬品市場における主要16薬効シェアの推移
44.9%
38.7%
51.7%
49.8%
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018
その他合計(億円)
主要薬効合計（億円）
主要薬効市場シェア(%)
Copyright © IQVIA All right reserved. 2019 Feb 日本医薬品市場統計 （統計書 / 1989年-2006年, IMSBase / 2007年-2018年）
All Rights Reserved. Confidential and Proprietary.
IQVIA
3

【図表 3】

平成年間-主要16薬効別シェアの推移



Copyright © IQVIA All right reserved. 2019 Feb 日本医薬品市場統計 （統計書 / 1989年-2006年, IMSBase / 2007年-2018年）

All Rights Reserved. Confidential and Proprietary.

IQVIA 4

【図表 4】

平成年間-前・中・後期の主要16薬効ランキング　薬効別売上額

前期（1989-1998年）			中期（1999年-2008年）			後期（2009年-2018年）		
1	J01 全身性抗菌剤		1	J01 全身性抗菌剤		1	L01 抗腫瘍剤	▲
2	A02 制酸剤，鼓腸及び潰瘍治療剤		2	A02 制酸剤，鼓腸及び潰瘍治療剤		2	C09 レニン－アンジオテンシン系作用薬	▲
3	L01 抗腫瘍剤		3	C09 レニン－アンジオテンシン系作用薬	▲	3	A10 糖尿病治療剤	▲
4	C08 カルシウム拮抗剤		4	C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤	▲	4	A02 制酸剤，鼓腸及び潰瘍治療剤	▼
5	B01 抗血栓症薬		5	C08 カルシウム拮抗剤	▼	5	C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤	▼
6	N06 精神賦活剤;痩身用剤を除く		6	L01 抗腫瘍剤	▼	6	B01 抗血栓症薬	▲
7	N05 向精神薬		7	B01 抗血栓症薬	▼	7	J01 全身性抗菌剤	▼
8	C09 レニン－アンジオテンシン系作用薬		8	A10 糖尿病治療剤	▲	8	L04 免疫抑制剤	▲
9	A10 糖尿病治療剤		9	N05 向精神薬	▼	9	N05 向精神薬	
10	C07 β－遮断薬		10	N07 その他の中枢神経系用剤	▲	10	J05 全身性抗ウイルス剤	▲
11	C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤		11	N06 精神賦活剤;痩身用剤を除く	▼	11	N07 その他の中枢神経系用剤	▼
12	J05 全身性抗ウイルス剤		12	J05 全身性抗ウイルス剤		12	C08 カルシウム拮抗剤	▼
13	C03 利尿剤		13	C07 β－遮断薬	▼	13	N06 精神賦活剤;痩身用剤を除く	▼
14	C02 降圧剤		14	L04 免疫抑制剤	▲	14	C07 β－遮断薬	▼
15	L04 免疫抑制剤		15	C02 降圧剤	▼	15	C03 利尿剤	▲
16	N07 その他の中枢神経系用剤		16	C03 利尿剤	▼	16	C02 降圧剤	▼

薬効別売上額の各期間合計　　「C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤」は97年、「L04 免疫抑制剤」は94年からATC分類を新設

Copyright © IQVIA All right reserved. 2019 Feb 日本医薬品市場統計 （統計書 / 1989年-2006年, IMSBase / 2007年-2018年）

All Rights Reserved. Confidential and Proprietary.

IQVIA 5

【図表 5】

平成年間-前・中・後期の主要16薬効ランキング　薬効別成長額

前期（1989-1998年）		中期（1999年-2008年）			後期（2009年-2018年）		
1	B01 抗血栓症薬	1	C09 レニン－アンジオテンシン系作用薬	▲	1	L01 抗腫瘍剤	▲
2	C08 カルシウム拮抗剤	2	L01 抗腫瘍剤	▲	2	L04 免疫抑制剤	▲
3	L01 抗腫瘍剤	3	A10 糖尿病治療剤	▲	3	A10 糖尿病治療剤	
4	A10 糖尿病治療剤	4	N07 その他の中枢神経系用剤	▲	4	J05 全身性抗ウイルス剤	▲
5	C09 レニン－アンジオテンシン系作用薬	5	N05 向精神薬	▲	5	B01 抗血栓症薬	▲
6	A02 制酸剤，鼓腸及び潰瘍治療剤	6	B01 抗血栓症薬	▼	6	N07 その他の中枢神経系用剤	▼
7	J05 全身性抗ウイルス剤	7	L04 免疫抑制剤	▲	7	C03 利尿剤	▲
8	N05 向精神薬	8	C08 カルシウム拮抗剤	▼	8	N06 精神賦活剤；痩身用剤を除く	▲
9	L04 免疫抑制剤	9	C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤	▲	9	N05 向精神薬	▼
10	C02 降圧剤	10	A02 制酸剤，鼓腸及び潰瘍治療剤	▼	10	C02 降圧剤	▲
11	C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤	11	J05 全身性抗ウイルス剤	▼	11	C07 β－遮断薬	▲
12	N07 その他の中枢神経系用剤	12	N06 精神賦活剤；痩身用剤を除く	▲	12	C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤	▼
13	C07 β－遮断薬	13	C03 利尿剤	▲	13	A02 制酸剤，鼓腸及び潰瘍治療剤	▼
14	C03 利尿剤	14	C07 β－遮断薬	▼	14	J01 全身性抗菌剤	▲
15	N06 精神賦活剤；痩身用剤を除く	15	C02 降圧剤	▼	15	C09 レニン－アンジオテンシン系作用薬	▼
16	J01 全身性抗菌剤	16	J01 全身性抗菌剤		16	C08 カルシウム拮抗剤	▼

薬効別対前年成長額の各期間合計　　「C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤」は97年、「L04 免疫抑制剤」は94年からATC分類を新設

Copyright © IQVIA All right reserved. 2019 Feb 日本医薬品市場統計 （統計書 / 1989年-2006年, IMSBase / 2007年-2018年）

All Rights Reserved. Confidential and Proprietary.

IQVIA 6